

# 中世の日本海水運と江津

西田友広

## 一、中世の日本海水運

中世 水運の発達 / 古代 陸運の時代 (古代官道の整備)

京都—大津—琵琶湖—| 塩津—敦賀—北日本へ

「今津—小浜—西日本へ」

一一、史料・資料から見る日本海水運

一一七四 (承安四年) 伯耆国久永御厨—若狭

一一九九 (永仁七年) 『古記』承安四年八月十六日条ほか

一二九〇 (成宗二十一年) 出雲国三尾津 (美保関) —若狭波部浦

一二三三 (元弘三年) 『某注進状』若狭秦家文書 『鎌倉遺文』一九九四六号

一三三三 (元弘三年) 隠岐国—九州

一五一八 (永正十五年) 『太平記』卷第七・先帝船上山臨幸事

一五二一—一五二八 (大永年間) 出雲国鞆浦—九州博多

一四九〇 (成宗二十一年) 『銀山記』山口県史料編中世一 銀山日記のうち

一一一六世紀 益田市沖手遺跡

平安末—室町時代の港町、中国・朝鮮の陶磁器も出土

中世を通じて活発な海上交通が開

一一、中世の船

描かれた中世の船

一一五八 (正嘉二年) 『伯耆国河村郡東郷荘下地中分絵図』

一一九九 (正安元年) 『一遍上人絵伝』卷十二

一一三二 (観応二年) 『嘉禰絵詞』卷六

一一二五 (寛保二年) 『益田家文書』二一五〇号・萩藩閩閩録』卷二二—四・周布吉兵衛二八八号

一一一〇 (享保五年) 九月十五日大内義隆袖判下文

『太平記』卷第二十八・三角入道謀叛事、卷二十九・越後守自石見引返事

『江城』『江要書』

『益田家文書』『南北朝遺文』三一—一九四九号

『江津』の初見史料

『益田家文書』二一五〇号・萩藩閩閩録』卷二二—四・周布吉兵衛二八八号

『江津』の初見史料

『益田家文書』二一五〇号・萩藩閩閩録』卷二二—四・周布吉兵衛二八八号

『江津』の初見史料

『益田家文書』二一五〇号・萩藩閩閩録』卷二二—四・周布吉兵衛二八八号

『江津』の初見史料

『益田家文書』二一五〇号・萩藩閩閩録』卷二二—四・周布吉兵衛二八八号

『江津』の初見史料

『益田家文書』二一五〇号・萩藩閩閩録』卷二二—四・周布吉兵衛二八八号

『江津』の初見史料

『益田家文書』二一五〇号・萩藩閩閩録』卷二二—四・周布吉兵衛二八八号

『江津』の初見史料

『益田家文書』二一五〇号・萩藩閩閩録』卷二二—四・周布吉兵衛二八八号

『江津』の初見史料

『益田家文書』二一五〇号・萩藩閩閩録』卷二二—四・周布吉兵衛二八八号

『江津』の初見史料